

平成 21 年度

事業所名 : グループホームすまいる2号館

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200103		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームすまいる2号館		
所在地	〒027-0096 岩手県宮古市崎嶽ヶ崎9-39-70		
自己評価作成日	平成21年9月10日	評価結果市町村受理日	平成22年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390200103&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成21年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ 本人らしさを大切にアットホームなグループホームを目指しています。
 ・ これから地域との関係をさらに深め、認知症になっても安心して生活出来るグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに同じ法人運営の介護老人保健施設やグループホームが立地されているため、人的交流や研修実施などにおいて、様々の支援・協力を得やすい環境にある。運営推進会議には、近くの中学校副校長を招き学生の体験実習のあり方について意見提言を頂くなど、大きな成果を上げている。またホームでは、茶道経験のある利用者に先生になって頂き茶会を開いたり、正装した出演者のコーラス見学会に出向くなど、趣のある楽しみ方をしている。なお、毎月、利用者毎の写真による表情や、生活の様子、体調の変化などの「お知らせ」情報は家族が安心して楽しめるよう工夫されたものとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

【評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームすまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホール内の良く見える場所に掲示し常日頃から各自で確認出来るようにし、実践につなげられるよう努めている。	日常生活の中で会「話」を大切に、日々穏やかに「和」み過ごし、地域の方々との繋がりの「輪」を大切に、かつ支援を受けながら過ごせるよう3つの「話」「和」「輪」をホームの理念とし、介護計画にも活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方との挨拶はもちろん、ホーム前の道路の草取り、自治会にも加入し回覧板を回したり、日常的に交流している。	地域の一員として自治会に加入し、地域の道路清掃活動等に参加したり、中学校の文化祭などに出かけて地域の方々との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練には近隣住民の方にも参加して頂き、避難誘導などを通じて認知症高齢者への接し方や介助の方法等を伝え、理解を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状を伝える事でグループホームがどのような活動を行なっているか理解して頂くよう努めている。また、出席者からの意見を参考にホームの活動を行なうように努め、サービス向上に活かしている。	議題によって関係者の意見を聞いているが、近くの中学校副校長をお招きして、学生の体験学習の取り組みに係る意見提言を頂くなど、運営推進会議の素晴らしい役割を果たしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の不明な点は伺ったり、お知らせや広報を持参したりしている。また、担当者の方からもケアに関する情報を頂く事もあり、連携に努めている。	市町村とは日頃から相談しやすい環境が保たれ、生活保護や成年後見制度、介護報酬関係など様々な相談に助言を受けるほか、担当者から国や県内の最新情報の提供を貰う等協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い全職員に理解を促し、それ以外にも職員同士で声を掛け合い、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。	内外の研修・勉強会などを通じて身体拘束の弊害について職員は理解しており、玄関の施錠を含めて拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、職員への理解を促している。また、お互いに声を掛け合いながら虐待防止に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用されている入居者もあり、勉強会を行い全職員の理解を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には自宅への訪問、実際にホームに来て見て頂き、不安・疑問の解消に努め、納得を得た上で契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の何気ない言動をご本人の思いとして受け止め対処している。ご家族様も意見・要望等をお話して下さるので、出して頂いた意見はミーティングやカンファレンスで話し合いを行っている。	毎月の支払時や、ケアプランの見直し時等に家族が訪問される機会を捉え、気がついた点や意見などを聞くようにしており、意見等があったときは、必ずミーティング等で取り上げ反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にコミュニケーションがとれている。またミーティング時に意見・提案をする機会があり、定期的に個別面談を行って反映させている。	職員への伝達や意向把握のため定期的に話し合いの機会を設けている。なお、個人目標シートをつくり例えば、スキルアップのため資格取得を目標としたときは、その実現に向けた様々の支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人の目標を把握し、業績の評価を定期的に行って向上心を持って働ける環境整備を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人ひとりの各自の目標や改善点を管理者と職員で話し合いながら力量把握に努めている。ホーム内外への勉強会への参加も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県GH協会に加入しており、ブロック内の職員と交流会を行ない、ネットワーク作りを行なっている。また、合同行事も計画されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みがあった時点でご本人と面談を行い、不安や要望に耳を傾け、ご本人の安心の確保と信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人との面談と同様、申込み時にご家族とも面談し、不安・要望を伺い、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を行い、要望や現状を把握したうえでケアマネ等と連携をとりながら必要なサービスを受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	郷土料理や調理方法、畑仕事など日常的な事や年中行事のやり方など、長年の経験を活かして教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とのかかわり・家族の絆を大切に、専門職として必要な情報を提供しながらご本人の事を一緒に考え支えていける関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊や外出、なじみのかかりつけ医への通院の継続などこれまでのなじみの関係が途切れないよう支援に努めている。	普段利用している馴染みの美容院に行ったり、また、かかりつけ医に通院していた時に、そこで知り合った方々との話し合いを楽しみにしているなどを把握しており、そのような場の活用や人とのつながりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士と一緒に暮らしているという意識を持っており、場合によっては職員が間に入る事で皆と一緒に過ごしている。お互いに助け合う様子がみられ、支え合う関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居になってもご利用者様・ご家族様の相談にのる事を伝え、支援していく事を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でも入居者様が選択・決定出来るようにしている。	声かけしながら一日の過ごし方を聞いたり、また飲み物でも、例えば、コーヒー、紅茶、お茶等から自分が希望するものを選ぶようにしている。なおセンター方式を採用し、日頃から本人の希望や意向等の把握とその実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの生活はご本人に聞いたり、ご家族に伺って必要な情報を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、表情、会話時の口調などから心身の状態を把握してその時々状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメントを行い、入居者様、ご家族様の要望・意見を伺ってカンファレンスを通じて現在の状態に合わせたケアプランを作成している。	「利用者本人をよく知らなければ、良い計画を作れない」の姿勢の下で、センター方式の採用とその情報を全職員の共有に努めている。その中で毎月のカンファレンス、3か月毎のあセスメント等を行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の話した事、表情や口調等が分かるような記録にすることで、職員間で情報共有している。ケアプラン見直し時には、本人の話した事の振り返りも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に合わせて食事形態を変えたり、食事の時間をずらしたりと、個々の要望に合わせて対応している。ご家族様の希望があれば、食事の提供や宿泊も可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学校・高校の職場体験学習の受け入れを行い交流の機会を設けている。また、避難訓練時には地域住民の参加を頂き安全で豊かな生活が送られるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医が主治医となっている。受診時に必要に応じて手紙を記し、日々様子を伝え適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医に受診する際は、職員が付添い支援をしているが、病状に大きな変化や医師が伝えたいことがあるときは家族に同行受診をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に日常の気づきを相談し、常に連携をとっている。訪問看護師とは常に連絡が取れるようになっており、必要時には適切な指示を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族・病院関係者と情報交換を行い、安心して治療が出来るように、また、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者ご本人、ご家族様、主治医と状態に応じて話し合いを行い、その人らしさを大切に方針を定め共有している。	利用者の平均年齢も高く、重度化傾向にある。また看取りの取組み方針を定め、訪問看護の活用など必要な支援をしているが、最終的には医療機関の利用となっているのが現状としている。	重度化や終末期への取り組みは事業所の力量や体制等が大きく影響するが、近隣の同じ法人の老人保健施設やグループホームとの連携を図りながら支援することも一考であり期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの見直し、再確認を行っている。また、消防署立会いのもとAED講習を行い実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しており、訓練の際には近隣住民の方々や地域の婦人防火クラブの方にも参加して頂いている。また、職員間で日頃から避難ルートの確認を行い、意識付けを行なうよう努めている。	避難訓練は、夜間想定や職員1人時想定の実施している。また、訓練の際は、地域の方々や婦人防火クラブの協力、支援の下で実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳・プライバシーについては勉強会を行っており、また職員間でも声を掛け合い対応に注意している。	入浴や排泄時、また日常の会話の中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように、マニュアルで学習するほか、「言うてはならない言葉」等について業務会議や勉強会の中で確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のさまざまな場面で希望を表し、自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の時間や食事の時間など本人のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時本人なりにおしゃれを楽しんでおり、化粧品や本人の好みの服など要望を聞きながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際、食べたい物を聞いたり旬の食材を取り入れている。食事準備から後片付けは本人の力を活かし行っている。	食事は、準備から片づけまでそれぞれの役割で行っているほか、職員と一緒に賑やかに会話をしながら食事している。なお、法人栄養士により、毎月、献立の「良い点、気をつけたい点」の指導に基づき工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を分かりやすく記録出来るようにしている。摂取量が少ない場合には、原因を考え対応して摂取出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の力を活かし口腔ケアを行っている。状態によって主治医・歯科医と連携し一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら排泄のサインを把握し、失敗を減らすよう努めている。また、本人の出来る力を活かし出来ない所を介助するようにしている。	排泄チェック表や表情のほか、排泄の失敗を減らすため一人ひとりの特徴を把握しながら、「そっと。さりげなく。」声がけをしながらできるだけトイレ利用の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・果物の多い献立や寒天の活用、乳製品の摂取など、個々に応じた下剤に頼らない工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の気分やタイミングに合わせて入浴できるように、誘導・介助を行い支援している。	入浴は、本人の希望に合わせてながらも、ほぼ全員が毎日入浴を楽しんでいる。また職員も入浴支援をしながら会話を大切にし、そこで利用者の思いや希望等を聞くようにしており、貴重な時間であるとの認識で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターンや状況に応じ、昼寝や夜間の睡眠についても安心して気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量については理解しており、服薬時は個々の状態に合わせた方法で支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持ち、自分の得意な力を活かして張り合いのある生活を送って頂けるよう支援している。また、楽しみごとや気分転換を入居者様と相談して行い、リフレッシュ出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一緒に散歩したり、希望の場所へドライブに出掛けたり、踊りの発表会を見に行ったりと本人の希望を聞きながら支援している。	散歩を好まない方もいるができるだけ出かけるようにしているほか、買い物や、近くの海岸や神社へのドライブ、中学校の文化祭等への見学など様々な機会を捉え、外出支援に心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理能力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には家族や友人・知人への電話を掛ける支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭と同じように花を飾ったり、会話や調理の音など適度な生活音が聞こえたりする環境であるように職員同士で気を付け合い、配慮している。	木造づくりで、木の香りと落ち着いた雰囲気の中で、窓から近隣の新興住宅や海岸特有の松林を眺望でき、毎日、皆が顔を合わせ過ぎず場として花を生け、行事写真を掲示するなど、工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルなどの家具の配置を工夫し、居心地良く生活出来るよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやご家族の写真など、ご家族様にご協力頂きながら本人のなじみの物を持って来て頂いている。	整理タンスや家族の写真など、使い慣れたものや、思い出のあるもの、馴染みのものなど、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の動線を妨げない配置を心掛けており、職員がホーム内を移動する際に安全を妨げる物はないか配慮している。		